
ポケモン不思議のダンジョン緑の探検隊 ~おまけ~

ピカチュウ達

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン不思議のダンジョン緑の探検隊 ～おまけ～

【Nコード】

N6803X

【作者名】

ピカチュウ達

【あらすじ】

おまけ編。

とくにないです

(1) おまけ編ですー (前書き)

初めてですー

(1) おまけ編ですー

ピカチュウ「ではさっさと初めようかー．．．」(棒読み)

ヒトカゲ「ほら、やる気ないっ!」

ピカチュウ「だって眠たいから面倒臭いもんっ」

ヒトカゲ「うるさいいつ『かえんほうしゃ!』」

ピカチュウ「え、ちよつとまでああああ」

三分後．．．(えっこれにはわけがひええええっ)

ピカチュウ「熱いっ!大丈夫だってもう目覚めたからっ!」

ヒトカゲ「うるさいっかえんほうしゃ!」

ピカチュウ「熱っ!あちゃちゃちゃちゃっ!」

作者「以上、ピカチュウ&mp;ヒトカゲの喧嘩でしたー」
ピカチュウ・ヒトカゲ「作者出てんじゃないっ!」

(1) おまけ編ですー (後書き)

作者「あーあ・・・ピカチュウ丸焦げだ美味しそう」

ピカチュウ「やめっでああああ・・・」

(2) またおまけ(爆) (前書き)

ピカチュウ「よし。今日の分も終わったみたいだねー。」

ヒトカゲ「うーん、ある意味急展開適？」

(2) またおまけ(爆)

話が終わり・・・

ズバット「俺たち、初登場だけどここに出ていいのか？」

ヒトカゲ「ここは、言ったようにポケモン不思議のダンジョン緑の探検隊が出たポケモン達が出るから、いいのいいの。出たし。」

ドガース「で、何をする所なんだ？」

ヒトカゲ「てきとーにする所だよっ大体は話すところ・・・」

ピカチュウ・ズバット・ドガース「じゃあ、寝る。自由でしょ？(爆)」

ヒトカゲ「寝るなああああつ(怒)」

てきとーな所・おまけ おわり

ズバット・ドガース・ピカチュウ「zzz」

ヒトカゲ「本気で寝るなああああ」

(2) またおまけ(爆) (後書き)

またまたおまけー

ピカチュウ「本日も」

ヒトカゲ「楽しい」

ズバット「1日」

ドガース「でしたね。」

ヒトカゲ・ピカチュウ「えっ敬語!？」
(． ． ．)
「

(3) 無題・オプ・おまけ(前書き)

じゃあピカチュウたち爆弾トークがんばれー(爆)

あと、第3話より名前が変わるから一応・・・

ピカチュウ ミケ

ヒトカゲ ヒカル

で進行しますから覚えててネー(爆)

(3) 無題・オブ・おまけ

ヒカリ「こんにちはー！ーっまたはじまりましたっ！このコーナ
ー！」

ミケ「出番が・・・」

ヒカル「だってさ、少ないじゃん、本編でw」

ミケ「しかたがないじゃんか、後でヒカルがメインだから・・・」

ヒカル「あ、作者から今後の話についての手紙来たから読むねw」

手紙ないよう

ミケ・ヒカル『特に決まってないよーっ！ 作者より』

.....

ヒカル「今ちよつときれたwほんままじ作者に切れたw」

(ヒカル火炎放射準備中)

ミケ「ちよつ・・・ヒカル！押さえて押さえっ・・・あーあ・・・

ヒカル「火炎放射！」

ミケ「また作者からだw」

ミケ・ヒカル『いまの熱かった！熱かった！』

ミケ「酷い・・・」

(3) 無題・オプ・おまけ(後書き)

ミケ「あーまたヒカルが構えてるー・・・」

なんだかんだで作者は焦げました(爆)

【予約投稿です】

(4) おま k . . . ああ ああ (前書き)

ないよ

(4) おまk・・・あああ

ヒカル「さて！はじまりましたー」

ミケ「暗いw」

ヒカル（だって眠いしw

ヒカル「さあ！今回の題材はっ！」

ミケ『ポケモン不思議のダンジョン 緑の探検隊 カットシーン』
でーす！」

ヒカル「作者によると、けっこう省略って書かないで省略したところあるらしいので、そこを書くらしいですねー」

第5話かも？ 依頼決定してのペラップいず会話シーン

ミケ「これってただの落とし物ひろいじゃないか！例えば、探検とかないの？」

ペラップ「おだまり！それ以上言うと、蹴り飛ばすよー！」

ヒカル（蹴り飛ばすって・・・そんな短い足で出来るのか・・・）

END

ミケ「問題シーンはペラップとヒカルの発言にありましたーw」

ヒカル「あゝ止めてっ！はい終わり！終了！」

ミケ「いや、まだあるし・・・」

ヒカル「やめええええええ！火炎放射！」

ミケ「熱い熱い熱い熱い熱い熱い！！熱い熱い！熱い熱い熱い！」

ヒカル（逃走）

もう終わりです。

(4) おまき・・・あああ (後書き)

作者の取材：その後ヒカルはすねたとさ・

(5) あれれ？

ヒカル「最近、この作者更新止まってない？」

ミケ「作者、しようと思っても寝てしまっただって。放置してたら書いたの消えるらしいし。」

ヒカル「じゃあ、この更新は？」

ミケ「作者は、寝る前の時間を削り、やってるみたい。作者眠たいとアイデア浮かぶらしいしね。」

ヒカル「ふーん。」

.....

.....

.....。

ミケ(この府陰気どうにかできない?)

.....

.....

.....。

ヒカル(えー.....この府陰気重たい.....)

.....

.....

.....。

スリープ「やっとみつけたぞ！ポケタンズ！」

ヒカル・ミケ「あつ。スリープだ。」

.....

.....

.....。

スリープ（この府陰気に巻き込むなよ・・・）

.....

.....

.....。

ミケ・ヒカル・スリープ『あー、もう！終わり終わり！』

ヒカル（うわ・・・かさなった。）

ミケ（最後に・・・）

スリープ（次回この二人と戦うからもうねよー。）

.....

.....

.....。

ヒカル（もうやめて・・・）

おわり

(5) あれれ？ (後書き)

なーんか、変な府陰気な二人ですたねー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6803x/>

ポケモン不思議のダンジョン緑の探検隊 ~おまけ~

2011年10月31日01時15分発行